



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

会員のための会報誌

“Colloid & Interface Communication”

C & I Commun について

コロイドおよび界面化学部会では、部会員に向けて年に4回(3, 5, 8, 12月)“Colloid & Interface Communication (C & I Commun)”という名称の会報誌を発行しています(2008年までは“ニュースレター”の名称)。1976年の部会発足時からスタートした当会報誌は今年でVol. 42となり、部会員の皆様に長年親しまれています。毎号充実した会報誌を部会員の皆様に届けられるよう、編集委員22名(2017年度)がアイデアを出し合って編集に取り組んでいます。当部会は、大学・研究機関と企業の研究者が集まる組織であり、編集委員会でもお互いの立場から意見を出し合い、多くの人に読みたいと思われる“C & I Commun”を目指しています。

毎年3月発行のNo. 1には日本化学会春季年会のコロイド・界面化学部門のプログラム、8月発行のNo. 3にはコロイドおよび界面化学討論会の全プログラムが掲載されます。コロイド・界面化学に興味のある方には重要な会報誌です。

年4回発行の“C & I Commun”は、各号以下のような内容で構成されています。

①巻頭言、②特集記事、③Interface、④Topics、⑤研究室紹介、⑥リレートーク～コロイド・界面との懸け橋、⑦部会から、⑧会告

C & I Commun の情報は?

Interface では、大学・研究機関の研究者によるコロイドおよび界面化学に関連



年4回発行の部会誌“C & I Commun”

した基礎的、学術的な最新の研究を毎号8件程度紹介しています。各号2件は「若手注目研究」として、コロイドおよび界面化学討論会で「若手口頭講演賞」を受賞した35歳以下の若手研究者(大学院生を含む)の研究を紹介しています。Topicsでは、企業の研究者によるコロイドおよび界面化学に関連した応用的、産業的な研究(商品紹介を含んでも可)を紹介しています。

読む価値あり・魅力満載の「特集記事」

特集記事では、毎号4名程度の委員が知恵を絞り、テーマを決定しています。2017年は次のテーマの特集記事を6～9ページにわたって掲載しています。

No. 1「イノベーションを先導するつくばの国立研究機関～Part II: NIMS 座談会」
No. 2「ファラデーの金コロイド～160年の時を経て」

No. 3「第68回コロイドおよび界面化学討論会一般シンポジウムへのお誘い」
No. 4「研究開発職をめざす大学院生の就職活動」

No. 1では、コロイド・界面化学分野

に従事する研究者が多い物質・材料研究機構(NIMS)の研究活動の魅力や研究環境について、座談会形式で紹介しています。「Part I」(2016年No. 4)は、同じつくばにある産業技術総合研究所(AIST)に関する内容です。No. 2では、ファラデーの金コロイドについて、安部裕副部長(ライオン株式会社)がロンドンの王立研究所を訪れたときのレポートとともにファラデーの業績について詳しく解説しています。No. 3では、第68回コロイドおよび界面化学討論会(神戸大学)に合わせて、討論会で企画された7件の一般シンポジウムの研究背景や動向、講演内容などを紹介しています。討論会の参加者からは、事前にシンポジウム内容を確認することができてよかったと好評でした。No. 4では、理系(化学系)企業の研究・開発職を目指す大学院生のための詳細な情報を、入社間もない若手社員の方々に実施したアンケート結果に基づいて詳しく説明しています。大学院生の方は必見です。

このような「特集記事」が毎号掲載されている“C & I Commun”は魅力が満載で、手元にあると必ず役立ちます。コロイド・界面化学やその周辺の分野にご興味のある方は、ぜひ一読下さい。

現在、部会のホームページに“C & I Commun”の目次を掲載していますが、今後は、記事の一部も公開していく予定です。部会員以外の方にもぜひご覧いただければ幸いです。

〔2017年度編集委員長 吉村倫一
(奈良女子大学)〕

© 2017 The Chemical Society of Japan